
仮題 コーヒー

さとし2001

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮題 コーヒー

【Nコード】

N7069C

【作者名】

さとし2001

【あらすじ】

夏の暑さから逃げるように入った喫茶店でふと高校時代を振り返る。そして現実に変える。たぶん当たり前で楽しかったから今でも頑張れると実感する。

（前書き）

たぶん10代にはわかりづらいかも。 疲れた大人向けの短編です。

何年かぶりの猛暑で街がうだっている。

100m歩くと、喫茶店に逃げ込みたくなる日差しの中、俺は仕事の合間のオアシスを見つけた。

「まだ時間が空いているし、少しいいだろう」

俺は水分補給と糖分補給のために喫茶店に入った。

店内のいたるところに観葉植物が目につくのは都会だからか。

「みんな疲れているのかね？」と疲労で砂みたいな脳みそが暴走している。

「いらつしゃいませ、好きな席にお座りください。」店員に促され店内を物色する。

少し迷って窓際のテーブルを取った。

「ケーキセット。ホットコーヒーでもらえます？」

「はい、かしこまりました。セットドリンクはホットコーヒーですね。」

注文を取って水を飲み一息。

熱暴走中の脳みそに理性が帰ってくる。

「あっちーよなあ。」

自然と口から独り言がこぼれた。こんなに暑いのはいつ以来だろな。左手が勝手にタバコを準備している。火をつけて午後の予定を確認する。

注文した品が来るまで時間が出来た。

ほっとしながらタバコの煙を吐く。
煙を吐く。

口から上る煙は視界を染め、空気を染めていく。
ゆっくりとうつすらと。自分が煙に溶けていく気がする。
自分と煙の違いが面白い。肌から煙が出ている気がする。
そう思っ目目を閉じると、途端にグルグル回りだす視界に舌打ちをする。

「最近、忙しくて睡眠足りないからなあ」
人間まともに寝れなくなると面白い。思考はネガティブに。でも調子はハイに。

当たり前の事が面白くなってくる。
「すっかりコーヒーが日課になっちまったな」
疲れをごまかすためのコーヒー。糖分とカフェインを血液にぶちこんで一日の勢いを貰う。

結局疲れは取れず、またコーヒーを飲む。
眠気覚ましの苦いコーヒー。仕事の友達。俺のパートナー。
「休みまでの辛抱だよな」
愚痴を言いながら外を眺める

しかし暑い夏だ。いつ以来か。
「大学？ いや高校の時が一番暑かったかなあ。」
あの頃の思い出は多い。夏休みの一日。平日の一日さえも記憶に残っている。

「なんで いまは残ってないんだ？」
イベントは覚えている。先週の内容もミーティングも覚えている。けれど。あの頃ほど原色で、温度と、匂いまで覚えている記憶は少ない。

「年取ると時間まで早く過ぎていくのかねえ。」
ぼーっと 景色を見る。
目線をテーブルに戻す。

灰皿からタバコの紫煙が昇っている。

タバコ始めたのもあの頃だっけ。高3に友達から貰ったんだよな。思考が記憶をたどる。紫煙の匂いが思い出を刺激し、宙を彷徨っていた視線が紫煙の先に焦点を合わせていく。

煙と自分。

境界が溶けた自分は。

とうとう現実と過去を混ぜ始める。

思いは想いへ。記憶は自分を。自分の源記憶を呼び覚ます。

まるで目が覚めるように俺は高校時代を思い出ししていた。

アレは夏。受験を半年後に控えた3年。学校の行事は大体終わり、試験。試験。試験と教師が騒ぎ出していた。

今日も国語は漢字、古語の単語テスト。数学、英語ももれずに何か宿題が出るだろう。

「あー もう脳みそ一杯！ 覚えられません！！」

大声を上げて伸びをする。

窓から覗く空は嫌味に青で。入道雲が腹立つほど白い。

「あー 夏だ。夏だ。夏だ。俺の甲子園は始まったばかりですよ」
背中を叩かれる。

「何回“あー”って叫んでるんだ、うるせえ」笑いながらプリントを丸めた手を振ってる奴がいる。

山村。 バカ・能天気・運動神経で生きているようなやつだ。しかし成績はいい。

「オイオイせっかく覚えたのが今ので忘れちゃったよ。どー責任とってくれるんですかあ」

「いやいやいや 多分覚えたつもりで覚えてなかったんだよバカだから。むしろ目を覚ましてやった分、感謝して欲しいね」

「えー なんですかなんですか、それ！しょうがないなあウドンで手を打とうじゃないか」

「どんな話だよ！」

「いやだから、これが“手打ちうどん”て話？うまい！！ほれ、おこれ」

「やだね」 次のテストの点数が悪い方がおごるってのはどーよ？
「おっ言ったね」 しょうがないなあ じゃあ快くおごらせてやるよ！！」

「へっ ラーメンは大盛りな。それ以外は食べねえ」

「大盛りありますか！それはますます楽しみになってまいりました
ほれ！帰れ！勉強の邪魔だ。これからガリ勉強するから」
「減らず口を」

いつも通りのじゃれ合い。女子には胡散臭そうに見られるが視線なんぞ怖くない。それが友情。

結局その日はラーメンをおごらされた。

次の日、机に座っていると後ろから山村が来る。

「どーした」

「いや、遊びいかね？」

「はっ？ 何言ってるんですが まだ2時限目ですよ！？バカですか貴方！」

「うるせーなー あれだ体調不良になるんだよ」

「なぜに。顔色はいいじゃない」

「今日のテストあるじゃん。」

「あるねー 今日も単語よ！」

「勉強するの忘れた・・・」

「はっ！？マジで言ってますか？っかテストの存在自体忘れてたでしょ？」

「おう！」

「いばんな！」

「んで悪い点を残したくないので。付き合え。」

「なんつー言い分！てかヒデー俺勉強してるんですけど？」

「いや 悪い点を残すのはプライドがゆるさん」

「俺のことは度外視じゃんよ！」

「しょうがない もう決まったことだ 保健室にいくべ」

「飯がおごりなら許す。」

「おごるわ」

「行くわ」なんか笑える。

体調不良で帰る。行くあてはない。

しかも田舎だからスゲー目立つ。

チャリで遠出する。

「何処行くよ？」

「海とかいいんじゃない？」

「いやだー」笑う。

「男と行くとこじゃねーだろ！」

「てか他は見つかるやバイ」

「ゲーセンとかもってのほかだよな」と笑う。

「あちー！ー！」

「あちー！ー！ー！」

「まだか海はー！ー！」

「あと少しー！ー！」

「あと少しー、何回目？」

「知るかー」

「てかホント何分よ！」

「20分くらいじゃねー」

「バカに乗ったばっかりにあちー！ー！」

「うるせー 乗ったお前もバカなんだよ！」と笑える。

ブーン。車の音が遠くに聞こえる。

「オイ、やばい！車来た！！」

「隠れる隠れる！」

「て、オイ！！！！ミニパトだぞ！！」

本気で焦って隠れる。なんとって制服だ。100m先だって見分けたつく。

一本道。必死にペダルをこぐ。

道の脇の木に張り付く。自転車は草むらに投げ込む。

ブーン。

車が過ぎていく。

なんてことのない、普通の軽自動車だった。

「マジかー！」

「てめえ目が悪いんじゃないか！！」

緊張から一転、悪態をつく。

でも海が近くなった。

その日の海は、何もなかったが、着く前で十分楽しかった。海風に向かってタバコを貰う。

何となく火をつけ吸う。普段は吸わないが、海で吸いたくなった。この日から何となく吸い始めた。

あんなに仲良かった山村とも最近は連絡をしなくなった。

紫煙で思い出す過去。

「タバコだけ続けちゃってるのかね。」

まだ煙の立っている灰皿を見ながらつぶやいた。

結局何も変わっていない。スピードが上がったのは必死なだけ。つまりなくしているのは自分自身。

「コーヒーも続けると何か見えるのかな。」

いやきつと来るはずだ。

そして今の必死さを将来から眺める日が来るんだろう。

タバコを始めた高校のように。

コーヒーを飲み始めた大学へ。

明日のコーヒーはきつと苦い。

でも明日もコーヒーを飲むだろう。

たぶん今度はコーヒーを透かして今日を思い出せるから。

タバコの煙の向こうよりは大人で、でも同じくらい必死な時代が見えるだろう。

それがわかるから今日も無理してコーヒーに口をつける。

「さて行きますか。」

必死になるのは怖くない。眠気を覚ます為のコーヒーもきつと必要なくなる。

いつか旨いコーヒーを飲んだ時、必死でも楽しかったと言ったために。思い出を裏切らない。俺はきつと頑張れる。

（後書き）

これからボリュームを増やすか検討中。
読んでくださった方。ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7069c/>

仮題 コーヒー

2010年11月24日15時53分発行